

これはアストラゼネカ英国本社が2007年2月1日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語標記のままとしています。(2007年2月2日提供)

AstraZeneca PLC 2006年第4四半期・通年業績

**「2006年通年業績は堅調：1株当たり利益は34%増；パイプラインの強化は前進
引き続き生産性の向上を推進」**

ファイナンシャルハイライト

グループ	第4四半期 2006 100万ドル	第4四半期 2005 100万ドル	前年 同期比 %	恒常 為替 %	通年 2006 100万ドル	通年 2005 100万ドル	前年 同期比 %	恒常 為替 %
売上高	7,154	6,286	+14	+11	26,475	23,950	+11	+11
営業利益	2,003	1,636	+22	+24	8,216	6,502	+26	+28
税引前利益	2,103	1,689	+25	+26	8,543	6,667	+28	+29
1株当たり利益 米国のToprol-XL™ 控除 後**	\$0.93	\$0.77	+21	+22	\$3.86	\$2.91	+33	+34
売上高	6,878	5,940	+16	+13	25,093	22,659	+11	+11
1株当たり利益	\$0.83	\$0.66	+26	+29	\$3.36	\$2.50	+35	+36

** Toprol-XL™ の米国の売り上げならびに利益を本年度、昨年度とも控除

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)

- 通年の売上高は11%増の264億7,500万ドルでした。
- 5つの主要製品 (Nexium™、セロクエル、クレストール、アリミデックス、Symbicort™) の通年の売上合計は23%増の133億1,800万ドルでした。
- 通年の営業利益は28%増の82億1,600万ドルでした。通年の営業利益率は3.8ポイント改善され売上に対し31.0%でした。
- 通年のフリーキャッシュフローは67億8,800万ドルでした。株主への還元は総額53億8,200万ドルでした (配当額が22億2,000万ドル、株の買い戻し額が31億6,200万ドル)。
- 2005年12月以降、当社は12の大型ライセンス・買収プロジェクトと9つの大型共同研究プロジェクトを成立させました。
- 2007年1月11日、アストラゼネカは、ブリストル・マイヤーズ スクイブとの第3相にあるジブプチジル・ペプチダーゼ4 (DPP-4) 阻害剤「サクサグリブチン」を含む2つの糖尿病治療薬の開発・販売に関する世界的な提携を発表しました。
- 当社は引き続き生産性の向上を推進します：資産活用の改善についての取り組みを発表しました (3ページ)
- 当社は2007年の1株当たり利益 (米国のToprol-XL™ の売り上げによる利益および生産性向上の取り組みに伴う臨時コストを控除) を3.80ドルから4.05ドルの間と予想しています。(2006年の1株あたりの利益はToprol-XL™ を控除後3.36ドルでした。
- 通年の配当は32%増の1株当たり1.72ドルでした。2007年の株の買い戻し総額は40億ドルと想定しています。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「アストラゼネカは2006年度も引き続き堅調な財務業績およびパイプラインの強化における進捗を発表しました。しかし、まだ為すべきことが残っています。我々の課題は明らかです。当社は、更なる生産性改善を推進し株主へのキャッシュの還元を高めつつ、既存製品の売上伸長の勢いを維持し、当社の成長を持続するためのパイプラインの構築を継続します。」

2007年2月1日 ロンドン発

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)

通年

年間売上高はCERベースおよび報告ベースのいずれも11%増加し、為替変動の影響はほとんどありませんでした。米国での売上高は16%増加し、他の地域は7%増加しました。

年間の営業利益はCERベースで28%増加し、82億1,600万ドルに達しました (報告ベースでは為替変動のマイナス影響2%を含み26%増)。通年の営業利益率は3.8ポイント改善され売上に対し31.0%でした。本年度は売上総利益率の改善、販売・一般管理費の厳格な管理ならびにその他収入の増加により、2005年より16%増加した研究開発費の増加額を吸収し、さらに利益を計上することができました。年間の1株当たり利益は2005年の2.91ドルから3.86ドルに34%上昇しました。取締役会は第2回中間配当を1.23ドルに引き上げることを勧告し、これにより本年度の年間配当額は32%増の1.72ドルになります。

5つの主要製品 (Nexium™、セロクエル™、クレストール™、アリミデックス™、Symbicort™) の通年の売上合計は23%増の133億1,800万ドルでした。

Nexium™の年間売上高は12%増加し、51億8,200万ドルに達しました。米国市場では契約販売による価格低下を販売量の増加により相殺し、さらに売上高は13%増の35億2,700万ドルを記録しました。米国以外ではドイツの市場が困難であったにもかかわらず、10%アップしました。

セロクエル™の売上は24%増の34億1,600万ドルでした。このうち米国市場の売上高が24億8,600万ドル (24%増) を占めました。2005年と同じく2006年も、セロクエル™は3大抗精神病薬のなかで唯一、米国市場での総処方数のシェアを伸ばしました。セロクエル™の市場シェアは2006年12月にさらに1.7ポイント上昇し、30.2%に達しました。米国以外の市場での売上高は23%アップし、9億3,000万ドルでした。

クレストール™の年間売上高は20億2,800万ドルに上り、米国市場57%増、その他の市場61%増と、ともに堅調な売上増を示しました。米国スタチン市場の新規処方数に占めるクレストール™のシェアは2006年12月現在、2.7ポイント上昇し、9.6%に達しました。

アリミデックス™の年間売上高は29%増の15億800万ドルでした。ATAC (Arimidex™, Tamoxifen Alone or in Combination) 試験の臨床エビデンスにもとづき、アリミデックス™は閉経後女性の早期乳がん治療薬の新たなゴールドスタンダードとなりました。

Symbicort™の売上高は18%増の11億8,400万ドルに達しました。2006年10月のEU相互認証手続きの完了を受け、11月にスウェーデンでSymbicort SMART™ (「Symbicort™維持・リリーバー療法」) が発売されたのを皮切りに、本年度中に欧州各国での発売が予定されています。当社は米国での発売を従来どおり本年中頃に予定していますが、この発売時期は、技術移転に成功し、必要な製品バッチのバリデーションを終了できるかどうかによって変更される可能性があります。

第4四半期

当期第4四半期の売上高はCERベースで11%、報告ベースで14% (為替益3%を含む) 増加し、71億5,400万ドルでした。米国市場の売上は17%、その他の市場の売上は6%増加しました。5つの主要成長製品の売上合計はNexium™ (13%増)、セロクエル™ (19%増)、クレストール™ (73%増)、アリミデックス™ (24%増) およびSymbicort™ (15%増) の好調な売れ行きを反映して、23%増加し、37億200万ドルに達しました。

当期の営業利益はCERベースで24%増加しました (為替損2%を含み、報告ベースで22%増)。1株当たり利益は前年同期0.77ドルから0.93ドルに増加しました。

アウトソーシングの最新状況

社内の創薬と研究開発の生産性の向上及び社外のビジネスチャンス獲得の継続によってパイプラインを強化することが、当社の第一優先事項です。昨年、当社は事業開発能力を大幅に強化し、パイプライン強化のために有望な社外のビジネスチャンスを獲得することができました。2005年12月以降、当社は事業開発を目的とした12の大型ライセンス（3社の買収を含む）と9つの大型共同研究プロジェクトを成立させました。最近発表した2つの糖尿病治療薬に関するプリストル・マイヤーズ スクイブとの共同開発も含め、新たな取り組みによって、当社の後期開発パイプラインに5つの第2相試験および2つの第3相試験が加わりました。

生産性の向上

過去3年間にわたる堅調な財務内容は、主力製品の良好な売上増と厳しい費用管理の賜物です。当社を初め、業界全体が特許期間の終了を迎え、さらに政府や民間保険会社からの価格引き下げの圧力を受けて、今後厳しい局面を迎えますが、この時期にも競争力のある財務内容を維持できるよう、堅実な経営に努めています。

これに併せて、当社は生産性の向上に向けて新たな施策を採用しており、グローバルサプライチェーンの資産活用改善プログラムを発表しました。今後3年間に、当社は生産資産を合理化する計画であり、会計上の費用約5億ドル（このうち約3億ドルは現金）を計上するほか、労使協議会、労働組合および他の雇用者代表団体と協議のうえ、各地の労働法に従い、3,000名の人員削減を進める予定です。

今後の見通し

これまでと同様、2007年も米国内のToprol-XL™フランチャイズの業績面での貢献度を確実に予測するのは困難です。すでに報告した結果に加え、2006年のToprol-XL™の売上と利益も報告しており、米国内の利益は発生しないとの前提で、2007年の目標額を設定しました。2006年の結果からToprol-XL™の米国市場での売上および利益を控除すると、調整後売上高は250億9,300万ドル、1株当たり利益は3.36ドルでした。

2007年は主要製品群の持続的な成長に牽引され、売上高は一桁代後半の伸び率になると予想されます。厳格な費用管理により、二桁代の1株当たり利益の成長を実現しながら、研究開発費の増大は1株当たり3.80ドルから4.05ドルの範囲と見込んでいます。これには米国のToprol-XL™の売上による利益および生産性向上の取り組みに伴う臨時コストは含まれず、プリストル・マイヤーズ スクイブとの糖尿病薬共同開発に伴う追加研究開発費は含みます。株主への償還額を引き上げる当社の決定は、2007年の株の買い戻し目標額を40億ドル（発行株式の正味価格）に定めたことによって証明されます。

現在の市場（50/100/200 mg力価はToprol-XL™ブランドが市場を独占し、25 mg力価はSandoz社およびPar社が後発競合製品を販売）の状況下で、Toprol-XL™製品の米国内売上による利益は、Par社への販売を含み、月間1億ドル程度です。当社は市場状況の変動に伴い、この予想値を修正する予定です。

注意：当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、上訴の決着前にToprol-XL™の後発競合製品が米国市場に導入される可能性もあり、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、クレストール™、Nexium™、セロクエル™、Symbicort™、アリミデックス™）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確定要素と考えられます。これらやその他のリスクや不確定要素については、2005年アニュアルレポートForm20 - Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)。

消化器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2006	2005		2006	2005	
Nexium™	1,430	1,247	+13	5,182	4,633	+12
Losec™ / Prilosec™ (オメプラール)	347	411	-18	1,371	1,652	-16
合計	1,801	1,677	+5	6,631	6,355	+4

- Nexium™ の米国での年間売上高は13%増の35億2,700万ドルに達しました。Nexium™ 錠の処方量は年間で17%増加したのに対して、他のPPIクラスの製品は全体で4%の減少を示しました。
- Nexium™ の米国での第4四半期売上高は17%増でした。Nexium™ 錠の処方量は当四半期で13%増加しました。米国国防省TRICARE開業薬局処方プログラム (Department of Defence TRICARE Retail Pharmacy Prescription Program : DoD/TRRx) に関連する引当金の解除により、当四半期は価格が上昇しました。
- 米国以外の市場でのNexium™ は、フランスおよびイタリアでの良好な売上成長がドイツでの大幅な価格崩壊を補い、年間売上高は10%増の16億5,500万ドルでした。第4四半期の米国以外の売上高は5%増加しました。
- 2006年12月、欧州特許庁 (EPO) はドイツのジェネリック製造業者からの訴えを受け、Nexium™ の欧州物質特許の1つを却下することを決めました。EPOの決定は残念ですが、当社はNexium™ を保護する一連の知的財産の正当性を確信しています。この知的財産には製法、用途および別の物質特許などがあり、有効期限は2009年から2019年です。Nexium™ に関する欧州物質特許の1つが却下されたとはいえ、当社が米国内でNexium™ 特許権を擁護し、行使する能力には何ら影響ありません。当社はNexium™ に関する米国特許をいくつか取得しており、いずれの権利も、無効と認められた欧州特許とは異なるものです。
- 米国でのPrilosec™ (オメプラール) の年間売上高は12%減少し、他市場でのLosec™ の売上高は17%減少しました。

循環器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2006	2005		2006	2005	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	387	455	-16	1,795	1,735	+3
クレストール™	625	353	+73	2,028	1,268	+59
Atacand™	301	247	+17	1,110	974	+14
Plendil™ (スプレンジール)	65	73	-15	275	360	-24
ゼストリル™	78	84	-11	307	332	-7
合計	1,609	1,378	+14	6,118	5,332	+15

- Toprol-XL™ (コハク酸メトプロロール) の米国市場の売上高は年間で7%増加し、13億8,200万ドルに達しました。米国内の総処方量は前年比10%増でした。
- 11月21日、米国でコハク酸メトプロロールの25 mg剤がSandoz (元Eon Labs) より発売されました。さらに11月、当社は米国市場用のコハク酸メトプロロール25 mg剤の承認後発競合製品に関してPar Pharmaceutical社と販売契約を締結したことを発表しました。
- 米国市場でのToprol-XL™ の第4四半期の売上高は、後発競合品の参戦を受けて、市場のパイプライン在庫に対する対応措置を取ったため、20%の減少となりました。
- 米国以外におけるSeloken™ の売上高は第4四半期2%減、年間7%減となりました。

- クレストール™の年間売上高は2006年に初めて20億ドルを超えました。クレストール™は現在84カ国で承認され、74カ国で販売されています。2003年初めの発売から、900万人以上の患者さんがクレストール™による治療を受け、7,000万件以上の処方箋が発行されました。
- 米国でのクレストール™の売上高は当期75%、年間57%の増加を示しました。米国スタチン市場の新規処方数は年間17%上昇し、クレストール™の新規処方数は58%上昇しました。2006年12月現在のクレストール™の新規処方市場の占有率は9.6%であり、前年比2.7ポイントのアップとなりました。これにより、クレストール™は2006年にブランドスタチン薬のなかで最大のシェア獲得率を記録しました。しかし、2007年1月初めにはシンバスタチンの後発競合製品がいくつか発売されるため、新規処方市場の占有率は低下する見込みです。
- 米国以外の市場ではクレストール™の第4四半期売上高は70%増加しました。欧州（56%増）市場の堅調な売上増と、日本での下半期の売上拡大によるアジア太平洋地域の成長に牽引され、年間で61%の増加しました。クレストール™の販売量ベースのスタチン市場シェア率は現在、カナダ17.4%、オランダ11.5%、イタリア19.3%、フランス12.9%です。
- Atacand™の米国での年間売上高は12%増加し、新規処方数は2006年に7%増加しました。
- 米国以外の市場におけるAtacand™の売上高は第4四半期14%増加し、年間でも14%増加しました。
- Plendil™（スプレンジール）の売上高は、米国市場への後発競合製品の参入により当四半期15%、年間24%減少し、米国市場では年間で71%減少しました。

呼吸器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2006	2005		2006	2005	
パルミコート™	400	338	+16	1,292	1,162	+11
Symbicort™	323	264	+15	1,184	1,006	+18
Rhinocort™	90	92	-3	360	387	-7
Oxis™	23	22	-	88	91	-3
アコレート™	22	17	+29	81	72	+13
合計	899	773	+12	3,151	2,873	+10

- Symbicort™の売上高は、欧州での継続的な市場成長とシェア獲得により、第4四半期に15%増加し、年間では18%増の11億8,400万ドルでした。
- 2006年10月のEU相互認証手続きの完了を受け、11月にスウェーデンでSymbicort SMART™（Symbicort™維持・リリーバー療法）が発売されました。さらに本年中に他の欧州諸国でも発売の予定です。
- 当社は米国でも、成人喘息患者における治療薬としてのSymbicort™の発売を従来どおり本年中頃に予定していますが、この発売時期は、技術移転に成功し、必要な製品バッチのバリデーションを終了できるかどうかにかかっています。
- 世界全体でのパルミコート™の売上高は第4四半期に16%、年間で11%の伸びを記録しました。引き続き米国でのパルミコート™吸入液の成長が主な原動力となり、同製品の売上高の増加率は第4四半期に31%、年間で24%程度に達しました。米国での販売数量の年間伸び率は10%程度であり、売上高の伸び率との差は価格の変更、マネージドケアの払い戻し調整および在庫量の変動によります。
- 主にRhinocort™ Aquaの米国市場での売上減（9%）が原因で、Rhinocort™の年間売上高は7%減少しました。

オンコロジー

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2006	2005		2006	2005	
アリミデックス™	412	325	+24	1,508	1,181	+29
カソデックス™	327	283	+13	1,206	1,123	+9
ゾラデックス™	272	252	+5	1,008	1,004	+1
イレッサ™	63	72	-14	237	273	-11
Faslodex™	48	39	+18	186	140	+32
ノルバデックス™	23	28	-22	89	114	-19
合計	1,157	1,001	+13	4,262	3,845	+12

- 米国内のアリミデックス™の年間売上高は29%増加し、6億1,400万ドルを計上しました。総処方数は21%増加し、乳がん治療用ホルモン療法薬の総処方数に占める市場シェア率は12月に37.5%に達し、通年で2.7ポイント上昇しました。第4四半期のアリミデックス™の米国売上高は33%増加しました。
- 米国以外でのアリミデックス™の売上高は第4四半期18%増、年間29%増でした。欧州の年間売上高は30%増加し、アジア太平洋地域は27%増加しました。
- カソデックス™の米国での年間売上高は23%増加しました。米国以外の市場でも年間5%増加し、日本では10%の売上成長を遂げました。
- イレッサ™の米国以外の市場における売上高は第4四半期に5%、年間で10%増加しました。アジア太平洋地域での年間売上高は15%増加しました。
- Faslodex™の世界全体の売上高は通年で32%増加し、これには主に欧州での74%増が貢献しました。

ニューロサイエンス

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2006	2005		2006	2005	
セロクエル™	912	755	+19	3,416	2,761	+24
ゾーミック™	103	94	+7	398	352	+13
合計	1,240	1,084	+12	4,704	4,059	+16

- 米国市場では、セロクエル™の売上高は第4四半期に20%、年間で24%増の2億8,600万ドルでした。総処方数は通年で12%増加し、市場成長率を大きく上回りました。米国の抗精神病薬市場に占めるセロクエル™の総処方数のシェアは2006年12月に30.2%上昇し、前年比1.7ポイント増加しました。
- 米国以外の市場におけるセロクエル™の売上高は第4四半期に17%増加しました。年間で23%増加し、欧州で25%、アジア太平洋地域で15%の堅調な売上増が認められました。
- 統合失調症の治療薬として規制当局に提出したセロクエル™1日1回徐放（SR）製剤の承認申請は現在、米国および欧州で審査中です。
- ゾーミック™の米国での売上比較には、2005年4月1日に国内での商品化に関する全責任が回復したことが引き続き反映されています。米国市場でのゾーミック™の売上高は第4四半期に5%増、通年では39%増でした。ゾーミック™の総処方数は年間で6%減少しました。
- ゾーミック™の米国以外の市場の売上高は第4四半期に8%増加し、通年では前年から変化がありませんでした。

地域別売上

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2006	2005		2006	2005	
米国	3,390	2,907	+17	12,449	10,771	+16
欧州	2,358	2,089	+6	8,903	8,463	+6
日本	442	424	+6	1,503	1,527	+5
その他	964	866	+9	3,620	3,189	+11

- 米国での年間売上高は16%増加しました。主要成長製品（Nexium™、セロクエル™、クレストール™およびアリミデックス™）の売上合計は23%増加しました。
- 欧州では、クレストール™（56%増）、アリミデックス™（30%増）、Symbicort™（18%増）およびセロクエル™（25%増）の成長に支えられ、年間売上高は6%増加しました。特にドイツではNexium™の好調な売れ行きが価格崩壊によって一部相殺されました。欧州での Losec™ の売上高は20%減少しました。
- 日本ではオメプラール、抗がん剤の好調な売れ行きとクレストール™の売上（系列製品の価格引き下げにより一部相殺）により、年間売上高は5%増加しました。

営業レビュー

別段の記載がない限り、伸び率は恒常為替レート（CER）

第4四半期

報告ベースで売上高は14%増、営業利益は22%増でした。恒常為替レートベースでは売上高は11%増、営業利益は24%増でした。

当四半期の売上高は為替変動により3%増加しましたが、営業利益は2%減少しました。前年同期に比べると、ドルはユーロに対して8%弱く、そのために売上高が増加しましたが、スウェーデンクローナ（11%）および英ポンド（9%）に対しても弱かったために、費用が増加しました。これらの為替変動の結果、当期の1株当たり利益は0.01ドル減少しました。

米国での売上高の実質成長率は、マネージドケア市場の収益、在庫変動および対応策の導入などの要因を調整しても、報告ベースの成長率の17%とほぼ一致します。Toprol-XL™ 25 mgの後発競合製品がSandoz社（元Eon Labs）から発売されたことを受け、流通在庫に対する引当金を導入しました。2007年にさらに後発競合製品が承認、発売される可能性を考慮し、今後Toprol-XL™の収益は出荷時ではなく、処方箋の作成時に計上する予定です。さらに当四半期には米国国防省TRICARE開業薬局処方プログラムの償還に対する引当金を計上しました。これら2つの要因が報告ベースの売上高に与える正味の影響はほとんどありません。米国以外の売上高は6%増加しました。

営業利益率は報告ベースで26.0%から28.0%に2.0ポイント上昇しました。為替の影響を除くと、当期の実質利益率は3.1ポイントの改善でした。

売上総利益率は報告ベースで77.9%であり、前年同期から変化はありません。売上高の4.8%というメルク社への支払い率は前年よりも0.1ポイント低下しました。為替の影響で売上総利益率は0.1ポイント減少し、ライセンス料の支払いにより0.3ポイント減少しました。Toprol-XL™およびNXY-059に関連する準備金ならびに他の資産準備金を計1億800万ドル当期に計上しました。前年の資産準備金は1億ドルでした。これらをすべて差し引くと、有利な製品構成および業務の効率化により、当期の実質利益率は0.2ポイントの改善となりました。

第4四半期の研究開発費は、社内ポートフォリオの進行に関連する業務量の増加およびアウトソーシング戦略の影響により、前年同期比21%増の11億2,400万ドルを計上しました。Cambridge Antibody Technology Group社の獲得に関連する費用は前年同期よりも4%程度増加しました。2005年第4四半期に比較して、売上高に対する研究開発費のパーセンテージは1.8ポイント上昇して15.7%となり、このうち為替の影響は0.6ポイントを占めます。

恒常為替レートベースでの当期販売・一般管理費25億1,100万ドルは、費用のかさんだ2005年同期から1%の上昇にとどまり、この増加は主にMedicare Outreachプログラムへの投資によるものでした。日本やオーストラリアでのクレストール™の発売など、当期も引き続き事業全体で主要製品の投資を継続しました。

その他の収入、特にスカンジナビア諸国での17の非主要製品の売却益により、営業利益率が0.6ポイント上昇しました。

取引上の為替エクスポージャーの管理に用いた金融商品の公正価格の変動は売上原価に含まれます。実質エクスポージャーによる正味為替損は2500万ドルでした。他の公正価格変動額の500万ドルは損益計算書上の別の場所に計上されます。

通年

報告ベースの売上高は11%増、営業利益は26%増でした。恒常為替レートベースによる売上高は11%増、営業利益は28%増でした。

為替変動による売上高の影響はほとんどなく、営業利益は2%減少しました。累積的にEPSは0.03ドル減少しました。

米国での売上高の実質年間成長率は報告ベースで約16%でした。米国以外の市場の売上高は7%増加しました。

営業利益率は27.2%から31.0%に3.8ポイント増加しました。為替の影響および他の収入を差し引くと、実質利益率は通年で2.9ポイント改善しました。

売上総利益率は報告ベースで1.4ポイント増の79.0%でした。総利益率はメルク社への支払い（売り上げの4.7%）の影響により0.1ポイント上昇しましたが、為替変動により0.1ポイント、ライセンス料の支払いにより0.2ポイント減少しました。2005年に発生したMedpointe社とのゾーミグ米国販売契約の早期打ち切りおよび製造引当金のほか、Toprol-XL™、NXY-059および製造効率化に関連して繰り入れた引当金の費用を差し引くと、実質総利益率は1.5ポイントの改善となりました。

研究開発費は16%（Cambridge Antibody Technology Group社への投資額を除くと14%）増加し、39億200万ドルを計上しました。これは売上高の14.7%を占め、0.6ポイント上昇しました。販売・一般管理費は前年比5%増の90億9,600万ドルであり、これにより営業利益率は2.0ポイント上昇しました。

ライセンス料が増加したほか、米国麻酔・鎮痛薬製剤部門のAbraxis BioScience社への売却益として第2四半期に1億900万ドルを計上し、さらにスカンジナビア諸国で非主要製品の権利を売却したことから、その他の収入が増加し、営業利益率が1.1ポイント上昇しました。

取引上の為替エクスポージャーの管理に用いた金融商品の公正価格の変動は売上原価に含まれます。実質エクスポージャーによる為替益の年間正味減少額は1,100万ドルでした。他の公正価格変動額の500万ドルは損益計算書上の別の場所に計上されます。

Toprol-XL™

2006年にToprol-XL™の米国売上高は13億8,200万ドル、EPSは0.5ドルでした。他の後発競合製品の市場参入時期を予測するのは困難であり、当社は将来の業績を判断するのに、現在の業績からToprol-XL™を除外するのが最善と考えています。今期および前期の業績からToprol-XL™を除外すると、売上高の伸び率はCERベースで11%（第4四半期13%）であり、EPSの増加率は36%（第4四半期29%）となります。

利息・配当収入

正味利息・配当収入は年間3億2,700万ドル（2005年1億6,500万ドル）、第4四半期1億万ドル（2005年5,300万ドル）でした。前年からの増加は、主に平均投資残高と利回りが昨年を上回ったことによります。計上金額にはIAS（国際会計基準）19号に規定の従業員給付基金の資産と負債による利息収入として、年間4,300万ドル（2005年1,500万ドル）、第4四半期900万ドル（2005年200万ドル）を含みます。

税金

本年の実効税率は2005年の29.1%（第4四半期27.4%）に対して29.0%（第4四半期31.3%）でした。2005年からの税率の低下は、主に利益の地域分散、株式報酬に関連する税額控除および税額控除の繰り越しに対する繰り延べ税金資産の認識によって生じた減税額から、主に国際移転価格問題に関連する税金引当金の増加額を減じた差額に相当します。第4四半期の支払い税額は、年度末の国際移転価格および他の引当金の変動によって増加しました。2007年の年間税率は29%程度と予想されます。

キャッシュフロー

年間のフリーキャッシュフロー（買収または株主への分配に利用できる正味現金流入額）は2005年の60億5,200万ドルに対して67億8,800万ドルでした。このうち53億8,200万ドルは株主への利益還元額（正味株式買戻し額31億6,200万ドルおよび配当金22億2,000万ドル）であり、11億4,800万ドルは買収投資額（Cambridge Antibody Technology Group [CAT]社およびKuDOS Pharmaceuticals社）です。またHumiraライセンス権（CATの一部として取得）の売却により6億6,100万ドルを受け取ったため、2006年の正味キャッシュインフローは9億1,900万ドルでした。2006年末の正味財産は65億3,700万ドルでした。

本年の営業活動による現金収入は、前年より9億5,000万ドル増加し、76億9,300万ドルでした。この増加は、税引き前利益の18億7,600万ドルの増加額から、支払い税額の増加と運転資金必要額の増加分を差し引いたものです。

本年の投資業務による正味現金支出は、2005年の11億8,200万ドルに対して2億7,200万ドルでした。これは現金等価物と短期預金の間での資金の振り替えによるものであり、この影響を差し引くと、正味アウトフローは買収および新たな業務提携による無形資産への支出の増加を反映しています。

投資

12月に2つの契約を締結しました。1つめは抗感染薬ダプトマイシンの全静注剤をアジア太平洋地域で開発、販売する権利についてCubist Pharmaceuticals社と契約し、1,000万ドルの前払い金を無形資産として計上しました。2つめは、慢性肺疾患の治療用の改良気管支拡張薬を開発するためにArgenta Discovery社と結んだ3年間の共同研究・ライセンス契約であり、契約一時金として2,100万ドルを見越し、無形資産として計上しました。

さらに12月に、AZD3480のProof of Concept試験の実施を決定し、Targacept社との業務提携契約に関連して、2,000万ドルの目標達成報奨金を見越し、無形資産として計上しました。

年末に続き2007年1月11日、アストラゼネカは、プリストル・マイヤーズ スクイブとの2型糖尿病の治療薬として試験中の2つの治験薬の開発・販売に関する世界的な提携を発表しました。前払い金1億ドルをすでに支払っており、無形資産として計上する予定です。

配当と株主への還元

取締役会は2007年3月19日に支払われる第2回中間配当金を34%引き上げ、1.23ドル（63.0ペンス、8.60 SEK）にすることを勧告しました。これにより、年間配当額は32%増の1.72ドル（89.6ペンス、12.20 SEK）になります。

昨年決定した方針に従い、取締役会は今後も引き続き収益に応じて配当金を増額（配当倍率を2～3倍の範囲に維持）しながら、株の買い戻しによりキャッシュフローのバランスを調整する予定です。2006年には配当と株の買い戻しにより、67億8,800万ドルのフリーキャッシュフローから63億6,700万ドル（発行済み株式の純価格53億8,200万ドル）を分配しました。取締役会は今後もこの方針を継続する意向ですが、フリーキャッシュフローがまず必要とされるのは業務上のニーズであると確信しており、従来通り、株主には余剰金を返還する予定です。主たる業務上のニーズは社内外の研究の機会を支援する研究パイプラインの構築です。この方針にもとづき、取締役会は2007年に40億ドルの株の買い戻し（発行済み株式の純価格）を予定しています。

株の買い戻しプログラム

第4四半期中に総額11億8,900万ドルを投じて普通株式1,970万株を買い戻し、償却しました。これにより、本年の年間買い戻し株数は7,220万株、総額41億4,700万ドルになりました。株式選択権の行使を考慮し、社員持ち株制度に関連して、本年中に総額9億8,500万ドルで2,360万株を発行しました。

2006年12月31日現在の発行済株式総数は15億3,200万株です。

将来の利息収入の推定額にもとづき、株式買い戻しプログラムによりEPSは0.06ドル増額したことになります。

最新の研究開発パイプライン

最新の研究開発パイプラインの一覧表は本プレスリリースに添付されていますが、当社ウェブサイト www.astrazeneca.com の投資家情報のページでもご覧になれます。

当社のパイプラインには現在、全部で120件のプロジェクトがあり、このうち95件は新規化学物質（NCE）、25件はすでに市販されている製品のライフサイクル管理（LCM）に関するものです。2006年6月の前回更新時の数字はプロジェクト総数103件、NCE 79件、LCM 24件でした。

2007年1月11日、アストラゼネカは、プリストル・マイヤーズ スクイブとの第3相にあるDPP-4阻害剤「サクサグリブチン」および後期第2相にあるナトリウム-グルコース共輸送体-2（SGLT2）阻害剤「Dapagliflozin（ダパグリフロジン）」を含む2つの糖尿病治療薬の開発・販売に関する世界的な提携を発表しました。2005年12月以降、アウトソーシングの努力により、当社の開発パイプラインに5つの第2相試験および2つの第3相試験が加わりました。さらに、当社の研究室から21の新規化合物の開発が始まり、本年は12の臨床治験も実施し、初期のパイプラインは順調な進展を見せました。

2007年1月、アテローム性硬化症に対するクレストール™の作用を証明した3件の臨床試験のデータを米国およびEUの規制当局に提出しました。METEOR試験を承認申請のための主軸試験とみなし、ASTEROIDおよびORIONの両試験のデータを補足的に使用しました。METEOR試験は2007年3月の米国心臓学科学（American College of Cardiology Scientific）会議で発表するために、データを提出しました。

統合失調症の治療に関するセロクエル™ SR（徐放）剤のデータを2006年7月に米国、10月にEUの規制当局に提出しました。双極性うつ病に関するIR（速放）剤のデータは2007年第4四半期にEUの行政当局に提出する予定です。セロクエル™ IR剤をSR剤に切り替えて投与した試験で好ましい臨床データが得られ、SR剤を投与した患者は再発が予防されましたが、IR剤を続けた患者は双極性障害が持続しました。現在、大規模なライフサイクル管理プログラムを進行中です。セロクエル™ SR剤の全般的な不安障害への使用に関する米国規制当局への承認申請は、当初の予定を変更し、2008年上半期とする予定です。大うつ病性障害の申請予定について特に変更はありません。

イレッサ™について、日本人患者集団を対象にした第3相NSCLC厚生労働省（日本の規制当局）承認後試験であるV-15-32試験は、イレッサ™の全生存率がドセタキセル（Taxotere）に劣らないことを証明するという主要目的を果たせませんでした。しかし当社は、こうしたデータによって、治療歴のある日本人NSCLC患者のリスク/ベネフィットは変わらないと考えています。

AtheroGenics社がすでに発表したように、AGI-1067の主軸第3相ARISE試験の最初の結果が2007年第4四半期の後半以降に発表される予定です。AtheroGenics社は、2007年3月の米国心臓学会科学会議での結果の発表に向けて、作業を続けていることも報告しました。

2006年12月、以前発表した安全性・製品特性分析試験の前期第2相プログラムが順調に完了したことを受け、当社はアルツハイマー病および統合失調症の認知障害に対するAZD3480の開発を継続することを決定しました。この決定により、業務提携契約を締結したTargacept社に対する2,000万ドルの目標達成報奨金を計上しました。

カレンダー

2007年4月26日	2007年第1四半期業績発表
2007年4月26日	2007年年次総会開催
2007年7月26日	2007年第2四半期・上半期業績発表
2007年11月1日	2007年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者
David Brennan